

# カルガリー大学図書館の思い出

理工学部 社会環境工学科 講師 高野保英

## 1. はじめに

平成20年度に近畿大学より在外研究の機会を得て、カナダ・カルガリー大学理学部地球科学科 (University of Calgary, Faculty of Science, Department of Geoscience) に1年間滞在した。その際に資料収集や文献検索などで利用した、カルガリー大学図書館の概要・印象などを紹介させていただく。

## 2. カルガリー大学図書館の概要

カルガリー大学図書館は、約320万冊の書籍と約30万冊の雑誌（電子媒体での提供を含む）を所蔵し、Main Libraryと6つのLibrary branch（図書館分室）で構成されている。

Main LibraryはMacKimmie Libraryとも呼ばれており、キャンパスのほぼ中央に位置する地上12階地下1階建てのMacKimmie Library Towerと地上4階地下1階建てのMacKimmie Library Blockからなる。書庫のほとんどはTower内にあり、自習室やミーティング・ルームなども設けられている。分室はそれぞれ関連する学部の建物内にあり、私が滞在した理学部地球科学科には、Gallagher Libraryという地質学・地理学関連の書籍を有する分室があった（他に、Business Library, Health Sciences Libraryなどがある）。

日本の図書館で言うところの閉架書庫は無く、よほど貴重な書籍でない限りすべての書籍・雑誌は開架書庫に配置されている（すなわち、雑誌と書籍の区別をつけずに並べられている）。また近刊以外の雑誌はすべて、通常の書籍と一緒に書庫に配置されており、過去1年分程度の雑誌・新聞のみ、Tower地下1階に配置されている。なおペーパーバック版の

小説などは所蔵していないらしく、その類の書籍を借りるならば、街の公共図書館に行った方がよいと知人からアドバイスされた。

書籍の貸し出しは、学生・教員に関わらずすべて大学のIDカードで処理される。また書架のあるフロアには必ずコピー機が数台設置されており、IDカードにお金をチャージしておけば、そのカードでコピー機を利用することができる。書籍の貸し出し・返却は、1階のCirculation Servicesというデスクで行う。貸し出しのシステムは、基本的に近畿大学の図書館と同様のシステムであるが、デスクの傍に貸し出し処理のための機械があり、セルフ・サービスで貸し出しができるようになっている。

## 3. 雑感

私は主に、上記のMacKimmie LibraryとGallagher Libraryを利用したが、そこでの経験・感じたことなどを、思いつくままに書く。

### (1) 分類番号

利用に当たって唯一困ったことは、分類番号のことであった。

図書館に収められているすべての書籍・雑誌には、日本の図書館と同様、アルファベットと数字の組み合わせからなる分類番号（Call Numberと呼ぶらしい）が付されている。ただし、このCall Numberの説明（番号と分野の内容を示す表のようなもの）はどこにも掲示されておらず、書架にもCall Numberの先頭のアルファベットしか記されていないため、どの分野の書籍・雑誌がどの書架にあるのか、すぐには判らない。従って書籍を探す場合に

は、あらかじめ図書館のホームページから書籍を検索し、Call Number を控えてから図書館に向かわないと、目当ての書籍を見つけない（ただし一度その書籍を見つけると、その周辺の書架には関連の書籍・雑誌があるため、以後は比較的楽に探すことができる）。

Call Number の一覧表を掲示するか、書架に分野名を書いておけば良いと思うのだが、何故そうしないかはよくわからない。

#### (2) 日本の書籍・雑誌

図書館には英語のみならず、ドイツ語・フランス語など様々な国の書籍・雑誌が所蔵されているが、日本のものもわずかながらあった。定期的に収蔵されている雑誌はある私立大学の紀要と「文藝春秋」のみであり、朝日・日経・読売などの主要な全国紙もあったが、なぜか滞在中に来なくなった。滞在中はかなり日本語の書籍に飢えていたので、普段はまったく読まない「文藝春秋」を毎月熱心に読んでいたことを思い出す。

書籍では、漫画版の日本の歴史全集が所蔵されていた。誰がどのような目的で収蔵したのかはわからないが、日本の漫画はカナダでも人気があるため、漫画好きの人が購入を進めたのかも知れない。

#### (3) Gallagher Library

上述したように私がお世話になった理学部地球科学科の建物には、図書館の分室の一つである Gallagher Library (地上1階と地下1階) があり、地質学・地理学関連の書籍・雑誌が



Gallagher Library の正面

収蔵されている。Gallagher はかつて在籍した教授の姓であり、その方の寄付を受けて設立されたい。

ただしスペースに限りがあるためか、図書館が収蔵するすべての地質学・地理学関連書籍が置いてあるわけではなく、MacKimmie Library にも関連書籍が多数あった。また、所蔵しきれない、あるいは所蔵する価値があまり無いと思われた書籍（主にペーパーバック版の古い書籍）のセールが開かれ、私も記念に2、3冊購入した。こういったところは、日本の図書館とはまったく異なる。

#### (4) 歴史の重み

カルガリー大学の創立は1966年であり、それほど古い大学ではないのだが、図書館に収蔵されている書籍・雑誌には古いものも多く、創立前のものもある。

時々休憩がてらに MacKimmie Library に行き、古い「TIME」や「LIFE」などを拾い読みしたが、個人的に一番感動したことは「The Strand Magazine」が所蔵されていることだった。この雑誌は1891年から1950年までイギリスで発行されていた月刊誌であるが、発刊の約半年後から1927年まで、アーサー・コナン・ドイルによるいわゆるシャーロック・ホームズ・シリーズを掲載したことで有名である。私は子供の頃からシャーロック・ホームズ（シャーロック・ホームズのファン）であったので、早速最初の小説である「A Scandal in Bohemia」の第1回目（1891年7月号）の掲載ページをすべてコピーした。

専門雑誌でも古いものが多数所蔵されており、古典的な名論文などが掲載された雑誌も直接手に触れることができたのは、よい経験であった。

#### 4. おわりに

カルガリー大学での在外研究で1年間の滞在中、様々な場所・機会でも文化の違いを感じたが、それは図書館においても同様であった。利用方法やシステムに関しては、日本の図書館と大きな違いは無かったが、それでも本稿

で述べたような微妙な違いや不思議な点があった。

元々読書好きであるため、資料収集や文献検索の目的以外でも MacKimmie Library に足を運んだが、本稿の依頼を受けてから図書館での様々な経験を思い出し、改めて欧米の文化と日本文化の微妙な違いを考える機会となった。そのことを記して謝意を表します。

